

6 ICTを活用した学び

☆クラウドの特性

クラウドとは、インターネット上（クラウド）にあるサービスを使ってファイルを保存したり、共有したりする仕組みです。インターネットにつながる端末があれば家でも学校でもファイルを閲覧したり、編集したりできます。また、同じファイルを同時に複数人で編集することもできます。

☆情報活用能力とは

情報活用能力とは、学習活動において必要に応じて情報手段を適切に用いて情報を収集・整理・発信・共有等を行うことのできる力のことです。情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含まれます。

詳しくは参考資料-3を参考してください。

GIGAスクール構想の目的

Society 5.0 時代を生きる全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、学校現場におけるICTの積極的な活用が不可欠との観点から「GIGAスクール構想」が推進されています。義務教育段階から児童・生徒の「1人1台端末」及び「高速大容量の通信環境」の下での新しい学びが行われています。高等学校においても「1人1台端末」を活用した学びを実現することで多様な生徒の学びを支援します。

生徒自身の日常的なICT活用を

「令和の日本型学校教育」の姿として「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められます。生徒がICTを日常的に活用することにより、自身の学習の状況を把握し、自分のペースに合わせて自ら学び直しをしたり、発展的な学習に取り組んだりすることが期待されます。また、共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動も可能になります。

授業では、資料収集、調査結果の整理（分析、グラフ化等）、協働学習、発表活動（プレゼンテーション）、繰り返し学習による知識の定着や技能の習熟を図る等での活用が考えられます。

ICTの活用によって、単に情報を収集・整理するだけでなく、情報を主体的に扱い、受け手の状況を想像した情報発信ができる能力を身に付けさせることができます。これらのICTを活用する能力を含む「情報活用能力」を育成する学習活動は、学校ごとにカリキュラム・マネジメントの視点をもって、全ての教科で行うことが重要です。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

特性に応じたICTの活用

例えば、読字や書字に困難を示す生徒には、大画面テレビによる教材提示やタブレット端末を活用した板書記録等の視覚支援が有効です。また、口頭でのコミュニケーションが苦手でも、文章化することで自分の考えを伝えられる生徒がいます。そうした生徒は文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトの活用によって、自己表出の機会が増やせます。

実践事例を紹介したWebページ等を参照して、効果的な支援方法を知りましょう。



ICT機器を活用することで

個別学習の場面では、個の課題を解決したり、それぞれにあった進度で学習したりすることが可能となり、より効果的に学習を進めることができるようになります。

協働学習の場面では、発表や交流を活性化することができ、思考力・判断力・表現力等の効果的な育成を可能とします。

ICTを活用した効果的な学びの場面

- ① 一斉学習での生徒の興味や関心を高める学び
- ② 個別学習での生徒一人ひとりの能力や特性に応じた学び
- ③ 生徒同士が教え合い学び合う学び（協働学習）
- ④ 特別支援教育等における障がいの状態や特性等に応じた学習活動

<例> 授業での活用

○体験学習、実験・観察等を行う際、その情報を映像やデータ等で記録する。

→実体験とデジタルデータを合わせて理解を深めたり、思考力を高めたりできる。

→記録した映像を見直しながら話合うことにより、新たな気付きを得られるような授業を実践することができる。

○実体験が困難な事象についてデジタル教材やプログラミングの技能を活用して視覚化を図ったり、シミュレーションする。

→事象についての理解が深まると共に具体的な行動との関連付けができる。

○情報端末や電子黒板などを用いて個人やグループの考えを即時に整理・共有し、さらなる議論を促し、その結果を記録する。

→多角的な見方や考え方に触れ、自分やグループの見方や考え方を変容させ、その変化の過程を記録できる。

○他校の教室や社会教育施設、学校外の専門家、外国の学校などつなげて合同授業や合同活動、意見交換などを行う。

→時間や言語、文化、年齢、専門性などの垣根を超えて多様な集団と繋がり、新しい価値を共に創り上げることができる。

☆映像等資料について

総合教育センターのWebサイトに、「教材作成に役立つリンク集」のページを用意しています。日頃から情報収集を行いましょう。

☆「令和の日本型学校教育」とICTの活用

令和3年1月の中央教育審議会答申で、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現にICTは必要不可欠と記されました。教育の質の向上のため、これまでの実践とICTとの最適な組合せの実現が必要です。

その際は高等学校段階の「目指す学びの姿」として示された次の三つを意識して授業づくりをしましょう。

【目指す学びの姿】

- ①社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力の育成
- ②多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学びの実践
- ③探究的な学びやSTEAM教育など教科等横断的な学びの提供

「令和の日本型学校教育」については
こちらの二次元コードへ →



各種の実践事例集を参考にしましょう

「学校教育の質の向上に向けたICTの活用の促進」に対し、さまざまな団体が実践事例を紹介するWebページを作成しています。中には校内業務効率化の事例が紹介されたものもあります。授業に関わらずICT機器の利活用を考える方は、参考にすると良いでしょう。

例 ○文部科学省「StuDX Style」

○国立特別支援教育総合研究所「インクルDB」



「StuDX Style」



「インクルDB」